

イチゴ

やさいの里営農センター 営農指導員 石川 貴洋



農作業

テクニカルダイアリー



玉ネギ

大網経済センター 営農指導担当者 高宮 秀隆

灰色かび病は気温20℃前後と多湿を好むため、曇天・降雨が続いた場合や灌水過多でハウス内が多湿になると激しく発生します。ハウス栽培では、特に12月



写真① 灰色かび病

灰色かび病は果実のほか、葉や葉柄・花弁などに灰色のカビが発生します。下葉など枯死した部分に病原菌が増殖し、伝染源となって果実に被害が広がります。収穫期の果実で発生すると、軟化・腐敗します(写真①)。

灰色かび病対策



写真② 通路に敷かれたベラボン

から4月ごろにかけて注意が必要です。
● 防除のポイント
 灰色かび病は薬剤散布だけでは抑えきれませんので、湿度対策が重要になります。ハウス内が多湿にならないよう、圃場の排水性を良くし、換気を行います。密植や窒素の過剰施用も控えください。茎葉が繁茂しすぎると通風性が悪くなり、湿度が高まって発病の原因になります。また、発病した果実や葉が伝染源になるので、速やかに取り除いてください。薬剤散布は予防散布が基本です。耐性菌対策として同一系統の薬剤を連用せず、必ず他系統の薬剤とローテーション散布を行います(表③参照)。

本圃の水はけ対策

栃木県では本圃の水はけ対策として、通路のマルチに「ベラボン」を使用する生産者が増えています(写真②)。通路に敷かれたベラボンが余計な水分を吸収し、作業性が向上します。また、ハウス内の湿度の軽減や水やり時の泥はね防止にもなります。病気の予防効果が期待できます。
 50坪のハウスの場合、「スーパーベラボン」を通路1本に2〜3袋使用してください。土壌中で分解されるまで3年以上かかるので、収穫終了後にすき込むことで根張りの改善や水持ち等、土壌改良にもつながります。

表③ イチゴの灰色かび病に登録のある薬剤

薬剤名	使用基準	使用時期	使用回数	作用特性	薬剤系統
アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	予防	アニライド系
パレード20フロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	予防	アニライド系
フルピカフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで	3回以内	予防	アニリノピリミジン系
アミスター20フロアブル	1500～2000倍	収穫前日まで	3回以内	予防・治療	ストロビルリン系
セイビアーフロアブル20	1000倍	収穫前日まで	3回以内	予防・治療	フルジオキシニル
カリグリーン	800倍	収穫前日まで	—	治療	炭酸水素塩剤

6月の分析経過について

残留農薬分析点数	多成分一斉分析	合計1点
トウモロコシ	…1点	

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 … 合計114点

病害虫対策について

べと病

べと病は、湿度が90%以上、気温が10〜20℃(最適温度は15℃)の温度条件を好みます。条件がそろえば数時間で発病し、感染拡大の速度が非常に速いという特徴があります。

症状としては、光沢がなくなり黄緑色に変色し葉が折れやすくなり、最後には枯死に至ります。初めは圃場の一部に発生し、徐々に圃場全体に広がっていきます。

● 腐敗病
 腐敗病は枯れた葉や傷口等から細菌が侵入して感染します。春先に温度が上昇すると、葉の枯れや腐る症状が発生します。軟腐病と似ていますが、比較的低温期から発生することや、軟腐病ほど悪臭を伴わないことなどから区別できます。発生した株は周囲の感染源になるので放置せず、早めに圃場の外に抜き取ってください。

● タネバエ
 幼虫が鱗茎に侵入し食害するため、根が伸びず葉がしおれ、食害を受けた鱗茎は腐敗します。また、タネバエの成虫は腐ったものに寄っていく傾向があります。発生が多い圃場では、播種時や定植時に牛ふんや鶏ふん等の有機質肥料の多用を避けましょう。

● ネギアザミウマ
 ネギアザミウマは雨が少なく乾燥傾向の場合、多発することがあるため、注意が必要です。成虫は体長1〜1.5cmで細長く、幼虫は体長1mm以下で黄色く細長いのが特徴です。成虫、幼虫ともに食害を行い、食害痕は「かすり状の白班」となります。多発すると葉全体が白化し、生育抑制や枯死を引き起こします。発生状況に応じて、7〜10日間隔での防除が必要です。

● タネバエ
 幼虫が鱗茎に侵入し食害するため、根が伸びず葉がしおれ、食害を受けた鱗茎は腐敗します。また、タネバエの成虫は腐ったものに寄っていく傾向があります。発生が多い圃場では、播種時や定植時に牛ふんや鶏ふん等の有機質肥料の多用を避けましょう。

表① 玉ネギに登録のある殺菌剤

薬剤名	使用基準	使用時期	使用回数	対象病害	作用特性
リドミルゴールドMZ	500～1000倍	7日前まで	3回以内	べと病、白色疫病	予防・治療
ジマンダイセン水和剤	400～600倍	3日前まで	5回以内	べと病、灰色かび病、白色疫病、黒斑病ほか	予防
ダコニール1000	1000倍	7日前まで	6回以内	べと病、灰色かび病、白色疫病	予防
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前まで	3回以内		予防・治療
ランマンフロアブル	2000倍	7日前まで	4回以内	べと病、白色疫病	予防
バリダシン液剤5	500倍	3日前まで	5回以内	腐敗病、軟腐病	予防・治療

表② 玉ネギに登録のある殺虫剤

薬剤名	使用基準	使用時期	使用回数	対象害虫
ダイアジノン粒剤5	3～5kg	播種時または定植時	2回以内	タネバエ、タマネギバエ、コガネムシ類幼虫
ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	ネギアザミウマ、ヨトウムシ、ネギハモグリバエ
ファインセーブフロアブル	1000～2000倍	収穫3日前まで	3回以内	ネギアザミウマ
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	